

和泊町

町勢要覧

2021



和泊町制施行80周年

人と未来を

笑顔でつなぐ、

心豊かな和の町、

和泊町





発刊によせて	1
地勢 / 沿革	3
町章 / 町民憲章	4
町花 / 町木 / 町民歌	5/6
行政	7
議会	8
農業	9
漁業	10
商工業 / 観光	11
生活環境	12
保健福祉	13
子育て支援	14
教育	15
SDGs / 移住	16
ゼロカーボンシティ宣言	17
国立公園	18
特集：町制施行 80 周年	
記念式典	20
写真で振り返る80年史	21/22/23/24
町の〇〇(町の鳥 / 蝶 / 魚)	25/26
航空自衛隊南西音楽隊「ふれあいコンサート」	27

発刊によせて

本町は昭和16年5月1日に町制を施行して、今年度町制施行80周年を迎えました。

本町では令和2年に策定した第6次和泊町総合振興計画で定めた「人と未来を笑顔でつなぐ、心豊かな和の町、和泊町」の実現を目指し「子育て支援」「観光と交流促進」「社会基盤整備」「循環型社会の構築」「産業振興」「保健福祉の充実」「学校・社会教育の充実」を町の未来を創る7つの柱とした行政課題に取り組んでいます。

今後の町制運営にあたりましては、この計画の趣旨に基づいて町の自然や文化、先人から引き継いだ地域資源や地域特性を活かしつつ、これからの和泊町・沖永良部島を担っていく世代の意見や考え方を取り入れ、町民一人ひとりの暮らしの質や満足度を向上させ、世代や性別、人種を超えてともに尊重し、支え合い、活力のあるまちづくりに努めてまいります。

町制施行80周年を記念して作成するこの「町勢要覧」が、本町の町政への御理解と、本町の魅力を皆様に御紹介するとともに、資料としてお役立ていただければ幸いです。

令和4年3月

和泊町長 前 登志朗



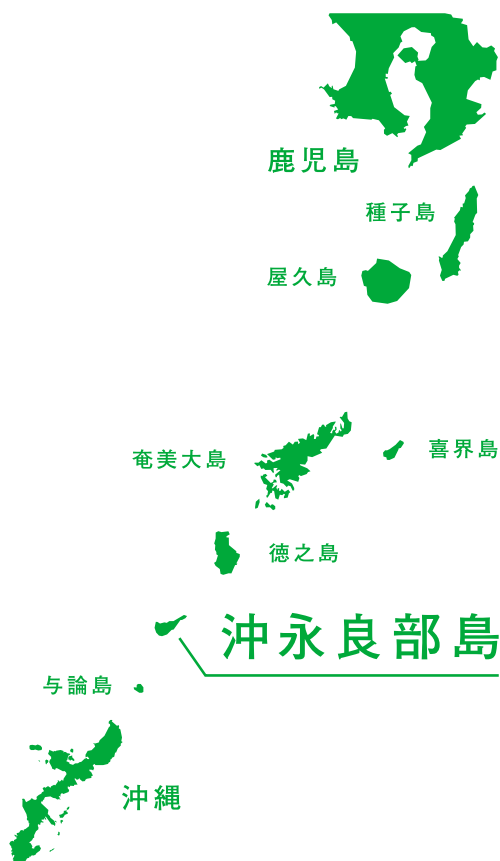


地勢

鹿児島市の南南西540km(航空距離)、北緯27度線上に浮かぶ面積93.65㎢周囲55.8kmの沖永良部島の東北部に位置し、平均気温22℃の亜熱帯気候に属します。

知名町と隣接し、南は太平洋、北は東シナ海に面し、東北部に徳之島、南に与論島、沖縄を見ることができます。隆起さんご礁でおおわれた平坦な地形で、中央に古成層からなる越山(海拔188.6m)があるのみで耕地に恵まれています。

産業は、温暖な気候を活かした農業が中心で、特に花き栽培が盛んな町として知られており、農業生産額においても県下で上位に位置しています。



沿革

本町の歴史は「奄美世」「按司世」「那覇世」「大和世」に区分されます。

奄美世とは、原始から8～9世紀頃までを言い、階級社会以前の集落共同体の時代でした。続いて按司世は、按司と呼ばれる首長たちの支配割拠する階級支配となります。沖永良部島はこの後、文永3年(1266年)から慶長14年(1609年)までの間琉球王朝の支配下にあり、文化や言語、風俗などはこの那覇世に起因しています。

その後、薩摩藩の琉球侵攻の結果、琉球から分割され薩摩藩直下におかれました。一方、文久2年(1862年)島津久光公の怒りに触れ、流謫された西郷隆盛翁が元治元年に召還されるまでの1年6か月の間、島民に教育や道徳を為政者には政治の要諦を教え、また、飢きんに備えての社倉法を教えるなど、島利民福を図り町民性の基盤を培いました。

明治13年に全島を12に区分し、戸長役場を置き、大正9年には町村制が施行され、和泊村、知名村となりました。また、明治37年野生のユリの球根を「エラブユリ」として横浜の商社に送ったのが始まりで、以後島民の生活を潤す外貨獲得農産物として成長し、現在の切花産業の基礎を築いています。

昭和16年5月1日、町制が施行され和泊村から和泊町になりました。同年12月第2次世界大戦が勃発、昭和20年8月終戦、翌21年の2月2日に奄美・沖縄諸島が日本から行政分離されアメリカ合衆国の統治下となりました。

昭和28年、祖国日本に復帰、翌年から特別措置法により、5年刻みで振興開発と振興策が講じられてきました。

その間、交通・産業・福祉・教育などの基盤整備を行い、飛躍的な発展を遂げました。

町章

明治100年記念として、昭和43年1月に制定された。「和泊」を「輪と鞠」におきかえ、輪は和・団結を、鞠は弾力・飛躍をあわらす。小円は、ゆりのおしべの色から希望・歓喜をあらし、大輪は海の色から悠々・信頼をあらわしている。（昭和43年1月制定）



町民憲章

わが和泊町は、先人の残した輝かしい歴史とうるわしい伝統を持っています。
わたくしたちは和泊町民であることに誇りと自覚をもち、みんなで住みよい町をつくるため次のことを行います。

- 1 わたくしたち和泊町民は、よく働いて、豊かな町をつくります。
- 1 わたくしたち和泊町民は、きまりを守って、明るい町をつくります。
- 1 わたくしたち和泊町民は、心をあわせて、美しい町をつくります。
- 1 わたくしたち和泊町民は、心と身体をきたえ、健康な町をつくります。
- 1 わたくしたち和泊町民は、子供の幸福を守って、伸びゆく町をつくります。

（昭和43年1月制定）

町花 / てっぽうゆり

明治32年から栽培が始まり、海外へも輸出されています。花ことばは清純、その香りは人々の心を和ませます。(昭和55年5月指定)



ひもと 日の本

昭和40年頃に、屋久島の自生ゆりを福岡県の中原喜右衛門が育成し、できたゆり。花容・葉姿が良好で、耐病性が高く、一番多く流通している品種。



ジョージア

昭和29年にアメリカから逆輸入された戦後の輸出ゆりの代表的なゆり。多花性で、1本に20～30輪の花が咲く豪華な品種。



プチホルン

近年、鹿児島県が育成したゆり。花径が10cm程度と小輪で、葉も小さく全体的にコンパクトな可愛らしい品種。

町木 / ガジュマル

大地に根を張り、力強く伸びる雄姿は、躍進する和泊の姿でもあります。(昭和55年5月指定)



町民歌

作詞 / 山口 喜慶 作曲 / 武田 恵喜秀 (昭和43年1月制定)

- | | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|
| 1 | 白百合はわたしの心
白百合はあなたの姿
咲いて咲いて
咲きひろがろう
人の和の香りも高く
この和泊に世界の窓に | 2 | 赤つちに夢ほり起こし
くろ潮に幸追いながら
伸びて伸びて
伸びひろがろう
人の和の根ざしも強く
この和泊に未来の園に | 3 | 青空をかけゆく希望
青空をいろどる理想
敬と愛の道つらぬこう
人の和のみのりは確か
この和泊にわれらの郷に <small>さと</small> |
|---|--|---|---|---|---|

行政

近年、人口減少や少子高齢化、地球温暖化をはじめとする環境問題やグローバル化の進展など、私たちを取り巻く環境は、これまでとは比べ物にならない速さで変化し、住民ニーズの多様化や高度情報化社会の進展、国・地方自治体ともに厳しい財政状況など、地方自治体を取り巻く環境も大きく変化してきました。

行政としては、最新テクノロジー活用も視野に地域課題を解決し、心豊かに暮らせる社会の実現に向けた取り組みなどについて検討を行い、まちづくりを総合的かつ計画的に進めるため、効率的な町民サービスの提供や効率的な行政事務の推進を図ります。



町長 / 前 登志朗



副町長 / 伊原 拓也



教育長 / 竹下 安秀

